

選定委員会における提案や質疑等

令和6年10月25日（金）に実施した磐田市地域包括支援センター運營業務委託法人選定委員会における参加法人からの提案や選定委員からの質疑のうち、全体に関する内容等をまとめました。今後の運営の参考にしていただきたく送付します。

1 参加法人からの提案等

- ・ワンストップサービスを目指し、なんでも相談できることを目指す。
 - ・メールでの相談受付、SNSや広報誌による情報発信を行う。
 - ・インフォーマルサービスの相談に対応できる体制を目指す。
 - ・出張相談では、地域の民生委員が寄って情報提供していただけることがある。センターにいるときには聞くことが少なかったことを知ることができている。
 - ・「ケアマネ地域資源ポケットガイド」は定期的に更新している。
 - ・一人暮らしや高齢者世帯を回り実態調査に努めている。
 - ・フレイル予防教室を開催し、フレイル知識の普及啓発やAIを活用した歩行測定、チェックリストによるフレイル判定、適切な運動やいき百などの紹介を行っている。
 - ・在宅ネットワーク交流会（民生委員、ケアマネ、SC、行政職員、包括）を実施している。
 - ・eスポーツの体験会を実施。継続的な介護予防の取組につながるか検討していく。
 - ・ACPの普及啓発（きっかけを提供し自分で考えてもらう）に努める
 - ・複合的な課題を抱える世帯が増え、事業所間ネットワーク構築の重要性から、障がい者相談支援センターと事例検討会を開催している。
 - ・権利擁護に関し、消費者被害を中心に市民への啓発に努めていく。
 - ・男性介護者のためのケアメン講座は、虐待の防止のために継続支援していく。
 - ・認知症の正しい理解のため、小中学校、企業に向けサポーター養成講座を実施し、啓発に努めていく。
 - ・医師、訪看等と日頃から相談できる、繋がりやすくするための会議を企画したい。
 - ・ウォーキングスタンプラリーを実施していく。
 - ・医療的ケアが必要になっても在宅で暮らすことができることを周知する講演会を開催する。
-

2 選定委員からの質疑

- Q. 職員の人数が多い分、情報共有が難しくなる。どのように情報共有しているのか？
- A. 相談はシステムに入力し、だれでも確認できる状態にしている。基本的には朝礼で共有している。
- Q. 職員のメンタルケアは実施しているのか？
- A. 年3回個別面接を実施、週1回事例共有を実施している。事例だけでなく職場内の困りごととも共有するようにしている。
- Q. 地域の医療機関との連携の状況は？
- A. 地域の課題を医師に知っていただくことが必要だと認識している。地域包括支援センターとして地域の課題を共有するための機会を作っていきたい。
- Q. 地域のケアマネのどのような部分を伸ばすと良いと考えているか？
- A. ケアマネはサービスを提供することが多くなってしまふ。自立支援の支援やインフォーマルサービスに繋げることが重要だと考えている。
また、一人ケアマネの事業所も多いため、一人で悩まないように、つながりを持つようにしている。
- Q. 豪雨による被害を受けて、BCPの見直し等はしているか？
- A. BCPは見直しをしたが、地域とのつながりの大切さや地域住民に災害時の意識を持ってもらうことが大切だと感じた。また、他事業所とのつながりも大切だと感じた。
- Q. 地域リハビリテーション支援事業の感想と課題、SCとの連携は？
- A. リハビリ専門職が介入することで、日常生活におけるリハビリ専門職ならではの視点や指示が明確で、フレイルからの回復に有効だと感じている。現状、窓口相談に来た方を対象としているが、相談にきていないフレイル状態の方の把握を行っていくことが課題に感じている。SCとは連携して対応した事例はないが、SCは地域の社会資源はよく知っているので協力していくとともに、新たに生み出すこともしていきたい。
- Q. 認知症の方の早期発見に苦慮していることはあるか？
- A. 地域における認知症への理解が乏しいと感じている。認知症に対する正しい理解が大切であり、心で受け入れてもらうことが大切だと感じ、法人全体としても取り組んでいる。
- Q. 家族介護者交流会は、どのように声掛けして参加者を集めているのか？
- A. 総合相談を受けているなかで直接声をかけたり、地域のケアマネに依頼している。参加者が固定化してしまわないように、新規参加者の掘り起こしを続けている。運営には、地域のケアマネの会に協力していただいている。